

2024年8月13日

各位

会社名 株式会社フレクト
代表者名 代表取締役CEO 黒川 幸治
(コード番号: 4414 東証グロース)
問い合わせ先 執行役員コーポレート本部長CFO 塚腰 和男
TEL. 03-5159-2090

2025年3月期 第1四半期決算 高い関心が想定される事項

2025年3月期第1四半期決算について、投資家の皆様の高い関心が想定される事項を、以下のとおり記載いたしました。

Q1. Cariot サービスを合弁会社化した背景について

A1. Cariot サービスの成長を加速させるため (決算説明資料P.16)

当社は、2016年より Cariot 事業を開始し、「クルマと企業をつなぐドライバー働き方改革クラウド」として、法人車両のリアルタイム位置情報活用と車両管理業務のDXにより、現場の業務効率化と安心・安全を提供してまいりました。

モビリティ業界においては、トラックドライバー不足を背景とした物流・運送の2024年問題やアナログな業務が多く存在することによる非効率等の課題への対策が求められています。このような状況を踏まえ、当社は、Cariot サービスの成長加速による当該課題解決への貢献を最大化することを企図し、Cariot 事業を運営する新会社をソラコムとの合弁会社として事業展開していくこととしました。

この度の合弁会社化により、これまで以上に密に連携しながら Cariot 事業におけるシナジー創出を実現してまいります。

(2025年3月期-第1四半期) トピックス-1

クラウドインテグレーションサービスにおいて、ソラコムとIoT領域での協業を開始しました。また、Cariotサービスを会社分割し、ソラコムとの合弁会社化を決定しました。

ソラコムとIoT領域で協業開始

IoTデータや顧客データを含む多様なビジネスデータをSalesforce Data Cloudに統合し、企業が効果的に活用できるよう支援する新たなサービス提供をはじめました。ソラコムは、IoT機器と通信に関する豊富な知識と経験を活かし、センサー、デバイス、通信の最適な構成および機器選定をサポートします。

SalesforceとIoT技術を融合させ、企業の生産性向上と業務効率化を支援します。



Cariotを合弁会社化 (24年10月1日効力発生)

Cariotサービスの成長加速を企図し、ソラコムとの合弁会社として事業展開していくこととしました。

これまで以上に密に連携しながら、Cariotサービスにおけるシナジー創出を実現してまいります。



Q 2. 2025年3月期通期業績予想修正の背景について

A 2. 2025年3月期第3四半期以降、Cariot サービスの業績が当社決算に含まれなくなるため
(決算説明資料 P. 20)

2024年7月26日に公表しました「当社及び子会社間の会社分割（吸収分割）並びに株式会社ソラコムとのCariot 事業の合弁会社化に関するお知らせ」に記載のとおり、Cariot サービスの合弁会社化を決定いたしました。2024年10月1日の効力発生日において、当社が保有する株式会社キャリオットの持分比率は49%となります。当社は非連結決算会社のため、合弁会社は持分法適用会社とならず、持分法投資損益は計上しないため、当社決算にCariot サービスの業績が含まれるのは2025年3月期第2四半期までとなります。当該影響等を考慮し、上記のとおり通期業績予想を修正いたしました。

なお、期初予想に対して、売上高は182百万円減少となりますが、Cariot サービスはまだ赤字の先行投資フェーズであったため、営業利益は32百万円増加することとなりました。

(2025年3月期-通期) 業績予想の修正

Cariotの合弁会社化による業績影響を織り込み、業績予想を修正しました。売上高は8,171百万円（期初予想対比△2.2%）、売上総利益は3,568百万円（期初予想対比△2.0%）、営業利益は952百万円（期初予想対比+3.5%）、当期純利益は569百万円（期初予想対比+4.0%）に修正しました。当社は非連結決算会社のため、合弁会社は持分法適用会社とならず、持分法投資損益は計上しません。合弁会社化は24年10月1日が効力発生のため、Cariotの業績は2Qまで含まれます。

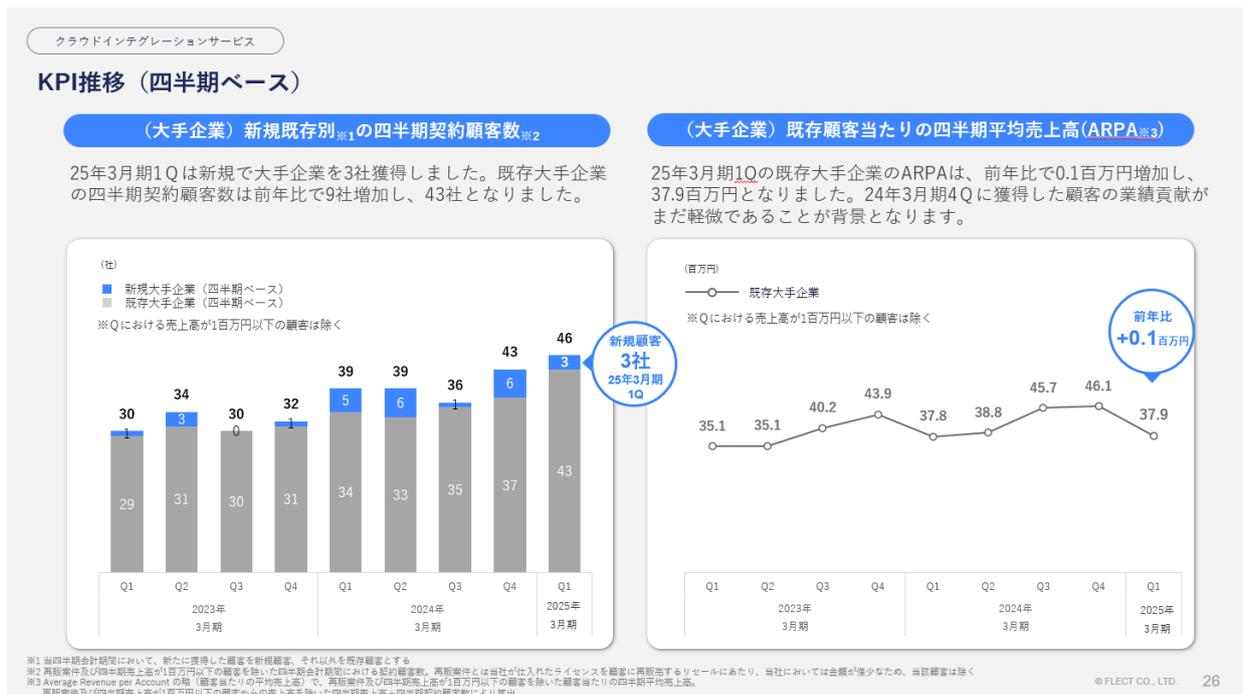
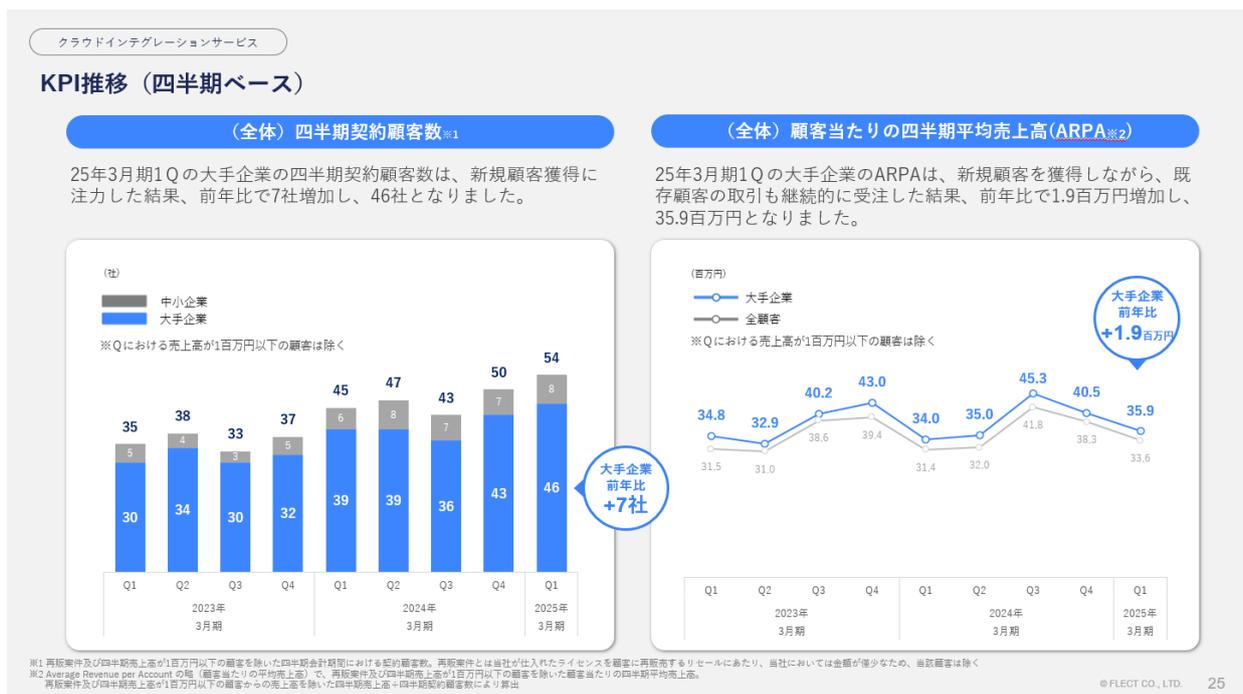
	2025年3月期 通期 (期初予想)	2025年3月期 通期 (修正予想)	期初予想対比	
			増減額	増減率
売上高	8,353	8,171	△182	△2.2%
売上総利益	3,641	3,568	△73	△2.0%
(%)	43.6%	43.7%	+0.1pt	-
販管費	2,722	2,616	△105	△3.9%
(%)	32.6%	32.0%	△0.6pt	-
営業利益	919	952	+32	+3.5%
(%)	11.0%	11.7%	+0.6pt	-
当期純利益	547	569	+21	+4.0%
(%)	6.6%	7.0%	+0.4pt	-

Q 3. ARPA が前四半期比では減少しているが問題ないか

A 3. 新規顧客の増加と一時的な追加受注の収束によるものであり、問題ない (決算説明資料 P. 25、26)

2025年3月期第1四半期における、大手企業の顧客当たりの四半期平均売上高(ARPA)は35.9百万円となり、前年比で1.9百万円増加したものの、前四半期比で4.6百万円減少しました。これは新規顧客が増加(新規顧客は少額取引から開始する傾向がある)したことに加え、前年第3四半期に発生の既存顧客による一時的な大口の追加発注が収束したことが背景となります。

また、2025年3月期第1四半期における、既存大手企業のARPAは37.9百万円となり、前年比で0.1百万円増加したものの、前四半期比で8.2百万円減少しました。これは、前四半期に獲得した顧客の業績貢献がまだ軽微であることが背景となります。



以上